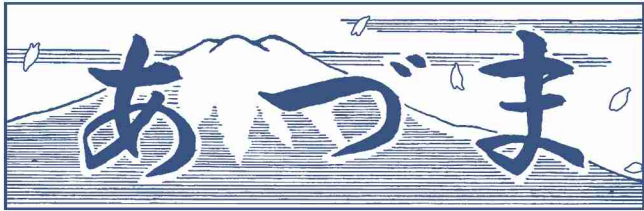


方面	USARJ 司令官訪問	(1面)
1 師団	HTC 訓練	(3面)
12 旅団	旅団訓練検閲	(4面)
1 施設団	総監初度視察	(5面)
関東補処	戦没者慰霊事業支援	(5面)



令和5年8月25日 第1063号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」
総監要望事項「万事作戦を基準」

陸上自衛隊東部方面隊広報誌
発行所：方面総監部広報室
住所：東京都練馬区大泉学園町
専用線：8-37-2446

オピニオンリーダー・東桜会 高工校・海自横須賀基地を研修



イージス艦「こんごう」甲板での記念撮影

方面隊は7月6日、東部方面隊オピニオンリーダー、東部方面隊東桜会の会員27名に対し、高等学校及び海上自衛隊横須賀基地研修を実施した。研修は当初、高工校が所在する武山駐屯地を訪れ、概況説明を受けた後、授業（天幕設営、飯ごう炊飯、一般教育）や教室を見学し、オピニオンリーダー等は高工校の特性をより深く認識することができた。

午後からは横須賀基地を訪れ、イージス艦「こんごう」を見学した。艦内では艦長からイージス艦の任務等の説明を受け、その後、海自横須賀地方隊に移動して横須賀地方総監から防衛講話を受けた。



高工校で飯ごう炊飯を見学



どうぶつ自衛隊4コマ漫画はこちから ↓

水分塩分

忘れずに

どうぶつ自衛隊



司令官と固い握手を交わす総監



総監部での記念撮影

日米の連携を強固に USARJ 司令官が訪問

総監は7月5日、朝霞駐屯地において在日米陸軍（USARJ）司令官ウォーマック少将着任に伴う表敬訪問を受けた。ウォーマック少将はこれまで第25歩兵師団副司令官や第5軍団副司令官等を歴任し、今年6月20

日に新司令官として着任した。総監部を訪れた司令官は東方の概況説明を受け、総監と懇談を行った。後、固い握手を交わした。懇談において総監は「東方管内は経済と政治の中心であり、在日米軍

の各司令部、防衛省直轄の部隊が所在している。そのため有事の行動においては作戦する地域にかかわらず、東部方面隊は非常に重要な役割を有している」と述べた。これに対し司令官は「必要に応じて司令官はいつでも協

力したい。東方は日本の防衛において重要な役割を担っていると考えている。また各種演習等においても協力したい」と応じた。今回の懇談により今後の日米の連携について認識を共有することができた。

リーナけやき広場において昨年に引き続き、屋外火曜コンサートも開催している。それぞれ東部方面音楽隊、第1音楽隊、第12音楽隊の他、陸上自衛隊中央音楽隊、在日米陸軍音楽隊等が順番に演奏している。

今後の演奏予定は左表のとおり。予約等は不要なので、より多くの方々にご来場いただき、音楽隊の演奏を楽しんで下さい。



55広場で演奏した12音の木曜コンサート（7月6日）

4年ぶりの木曜コンサート 猛暑における一服の清涼剤



けやき広場で演奏した1音の火曜コンサート（7月25日）

方面隊は6月8日から、新宿三井ビル55広場において屋外木曜コンサートを、また6月6日から、さいたまスーパーアリーナ

新型コロナウイルス感染症のため、新宿で演奏する木曜コンサートは4年ぶりの開催となり、多くの来場者が訪れてお昼休みのひとときを楽しんだ。

今後の演奏予定

日時	9月			
	12日(火)	14日(木)	26日(火)	28日(木)
	12時10分から12時50分			
場所	さいたまけやき広場	新宿55広場	さいたまけやき広場	新宿55広場
出演音楽隊	海上自衛隊東京音楽隊		米国空軍太平洋音楽隊	



訓練を視察する總監



システム機器の設定(部隊通信所等訓練)

方面システム通信合同訓練 計画の実効性・新領域の識能向上

東部方面システム通信合同訓練を実施した。群は7月19日から21日までの間、朝霞、練馬、相馬原、富士駐屯地、静岡県地区生地等において令和5年度方面システム隊員の識能の向上を目的として実施した。

本訓練は東部方面システム通信隊長が担任官となり、第1師団、第12旅団及び各方面直轄部隊が参加し、実距離通信、部隊通信所等訓練、部外事業者等との協同訓練を、また新領域の識能向上としてサイバーセキュリティ基礎教育を実施し、各種識能の向上を図った。

実距離通信におけるシステム通信組織の実効性について、東シ通群、師

団及び旅団の間において、衛星、狭帯域映像伝送装置(LLC)を活用した映像伝送訓練を実施し、秘匿した映像の伝送及び共有要領を演練した。

本訓練視察の際、總監は「ハリ映像では対処できない不感地帯については、携帯衛星通信装置(B-GAN)、LLCにより補完する等、各種手段を活用して、あらゆる地域から映像伝送を実施し得る態勢を構築することが必要である。映像伝送は防衛警備及び災害派遣上、必要な手段であり、あらゆる機会を活用して映像伝送訓練を実施し、その習熟を図ることが重要である」と述べた。

東部方面システム通信群は引き続き、方面直轄通信科部隊と連携し、各種計画の実効性を向上させるとともに、各方面直轄部隊のシステム通信技術の習熟を図る。

緊急時の給油に関する協定締結 東方管内全域に拡大

總監部は7月18日、全国にトラックステーションを展開する(株)宇佐美鉱油との間に、関東経済産業局仲介のもと「緊急時の中核給油所における給油に関する協定」を締結した。

本協定の締結により、中核給油所とは資源エネルギー庁が東日本大震災の教訓を踏まえ、災害発生時においても継続的に運営でき、かつ緊急車両に対する優先的な給油を役割とする給油所として設定したものである。

現在、東方管内約5000コ給油所、全国で約2000コ給油所がその指定を受けているものの、陸上自衛隊として活用するための枠組みが未整備であった。この度、4月、新商(株)新潟県1コ給油所、(株)武重商会(長野県8コ給油所)、7月(株)宇佐美鉱油(東方管内7県20コ事業所)との協定締結により東方管内で合

計29コ給油所の活用が可能となった。

本協定の締結により、災害派遣等における小規模部隊の機動展開において、最寄り駐屯地で給油するため高速道路を降りることなく、経路上の中核給油所で給油し、より迅速に目的地に前進することが可能となる。

總監部装備部は今後、部隊等に活用手順を示す「緊急時の中核給油所における給油に関するマニュアル」を整備していく予定である。



(株)宇佐美鉱油との協定調印式

計29コ給油所の活用が可能となった。

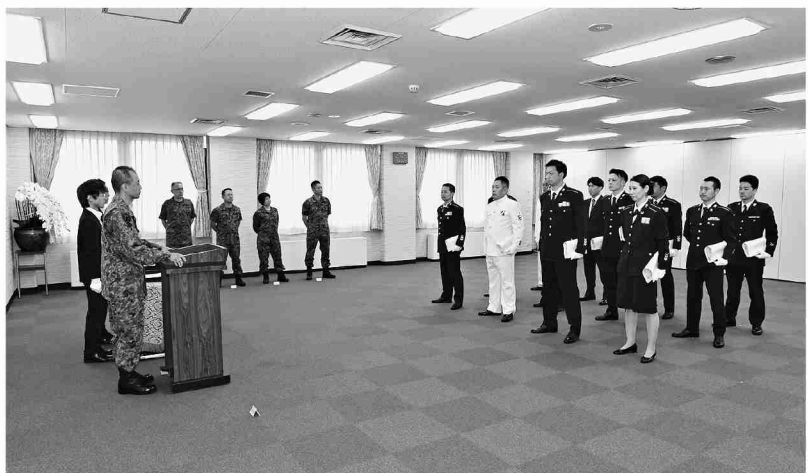
本協定の締結により、災害派遣等における小規模部隊の機動展開において、最寄り駐屯地で給油するため高速道路を降りることなく、経路上の中核給油所で給油し、より迅速に目的地に前進することが可能となる。

總監部装備部は今後、部隊等に活用手順を示す「緊急時の中核給油所における給油に関するマニュアル」を整備していく予定である。

令和5年度前期定期表彰 15個部隊、個人43人の功績称える



3級賞状を受賞した航空学校宇都宮校



募集等功勞で4級賞詞を受賞した隊員

方面隊は7月26日、朝霞駐屯地において方面隊の隊務運営に寄与した部隊及び顕著な功績があった隊員に対し、その功績を称えるとともに士氣の高揚を図ることを目的として、令和5年度前期定期表彰を実施した。

表彰式では業務隊等に対する表彰など、15コ部隊が表彰状を授けられた。また部隊表彰のほか、職務遂行等の功績により43人の隊員に対して個人表彰を実施した。

【第3級賞状受賞部隊】
航空学校宇都宮校
霞ヶ浦駐屯地業務隊
関東補給処用賀支処



体験試乗でのミストゾーン



おいしそうに戦闘糧食を食べる来場者

型トラック2両を用いて1両に20人を乗車させ、駐屯地内を周回した。コース途中には隊員がホースを使用したミストゾーンの設置や不整地走行など工夫を凝らしたことにより、参加者はその爽快感、迫力に興奮した。また体験喫食では戦闘糧食のビーフシチュー等を喫食した。さらに装備品展示では輸送防護車及び軽装甲機動車を展示・説明するとともに、鉄帽及び防弾チョッキの体験試着も行った。

来場者は「普段見ることができない装備品を間近で触れることができて楽しかった。とても貴重な体験だった」と語った。

広報センターサマーフェア

多くの来場者がイベントを楽しむ

広報センターは7月「センター」りっくくら22日、朝霞駐屯地広報センターにおいて、サマー

フェアイベントを開催した。当日は天候に恵まれ、多くの来場者が訪れ、車両体験試乗、体験喫食、装備品展示を楽しんだ。

車両体験試乗では大

第1師団



第1戦闘団HTC訓練で大奮闘 過去最高火力精度で敵を圧倒

師団は6月2日から9日までの間、矢別演習場で実施された令和5年度北海道訓練センター（HTC）訓練第1次運用に、東部方面特科連隊を含む諸職種部隊を配属された第1普通科連隊を基幹とした第1戦闘団（戦闘団長1普連長）が参加した。これにより指揮幕僚活動の評価及び戦

闘の客観的・係数的な評価により諸職種協同に必要な練度を向上させた。また本訓練の場において第1次師団訓練検閲（第1普通科連隊訓練検閲）を実施して部隊の練度を評価した。

HTC訓練に先立ち、5月17日から22日までの間、1普連及び配属協同部隊はそれぞれの駐屯地から上富良野演習場まで長距離機動訓練を実施した。

現地到着の翌日23日から、同演習場においてHTC訓練勝利に向けた事前訓練を行い、26日に矢別演習場に転進した後、27日に戦闘団は編成完了し、6月1日までの間で万全の訓練準備を整えた。

1日に統裁官（1師団長）は、勝利への執念を堅持して戦闘団がむしやりに勝利を掴むために行動することを第一に要望した。また留意すべき点として「企図の明示、確認、実行」と「非戦闘損耗の局限」を示すとともに、2点目に戦闘が終わった後の「反省と反映」を要望して訓示した。

6月2日の状況開始から敵1コ戦闘団規模の部隊が防衛する地域に対し第1戦闘団は、ヘリボン作戦及び前衛の2コ普通科中隊の迂回・浸透により敵警戒部隊を次々に迂回・駆逐するとともに、偵察・斥候活動を果敢に行い、敵重要目標である戦車及び自走榴弾砲を標定・撃破した。

7夜8日にわたり繰り返された広大な矢別演習場での熱き戦いは、過去のHTC訓練参加部隊中、最も高い近接火力の精度で敵部隊を終始圧倒し、任務を完了した。

統裁官は講評において「HTC訓練に2年連続参加できる機会は今も、2年連続で任務を完了できたことを誇りに思う」と述べた。

第1戦闘団は12日、編成を解組するとともに、13日1普連は、上富良野演習場に転進し、補備訓練を14日から16日まで実施するとともに、7日から21日にかけて長距離機動訓練を行い、全ての訓練任務を完了し、練馬駐屯地に異状なく帰隊した。



勝鬨をあげる第1戦闘団



補給弾薬のヘリ空輸（1飛）



敵警戒部隊の駆逐（1普連）



近SAMによる対空戦闘（1高大）



敵対戦車地雷の処理（1施大）



FH-70による射撃支援（東特連）



MCVによる偵察・戦闘（1偵戦大）

05JXR 南海トラフ地震対処 国難に備え対処能力の向上を図る

師団は6月26日から30日までの間、令和5年度自衛隊統合防災演習（05JXR）に参加し、南海トラフ地震対処計画の検証等を行った。本訓練は指揮幕僚活動として、対処能力の維持・向上及び災害対処計画の実効性の向上を図ることを目的に行われ、昨年に引き続き2年連続で行わ

れた南海トラフ地震発生の状況により演習した。師団は甚大な被害が予想される静岡県全域に対し、当初、第34普通科連隊を派遣して即時救援活動を実施した。さらに、甚大な被害が生じた伊豆・小笠原諸島の離島に対する対処を実施した。

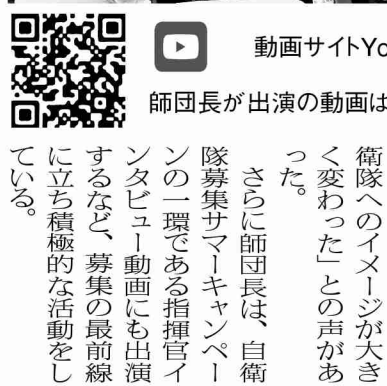
この間、師団司令部は東部方面総監部が静岡県に、被害状況の解明に伴い静岡県中部地区に部隊を集中し師団全力で即時救援活動を実施した。さらに、甚大な被害が生じた伊豆・小笠原諸島の離島に対する対処を実施した。

師団は本訓練を通じて、指揮幕僚活動の能力を向上させるとともに、想定外の状況にも対応でき柔

軟な部隊運用及び南海トラフ地震対処計画の見直しのための資を得ることができた。



関係機関との有機的な連携



師団長が出演の動画はこちらから

【表彰】第4級賞詞（第1普通科連隊）
本管中 杉谷 武志 2曹
1中 和田 健一 1士長
3中 飯沼 剛史 2曹
3中 阿保 憂樹 3曹
4中 佐藤 守彦 3曹
【表彰】第5級賞詞（第1高射科大隊）
指情中 大島 由寛 3曹
（第1偵察戦闘大隊）
戦闘中 土屋 達彦 3曹
戦闘中 住福 紘充 3曹
（第1施設大隊）
1中 伊澤 亮 3曹
（第1普通科連隊）
本管中 小出 浩史 1曹
本管中 中沖 裕 2曹
2中 榎本 駿斗 3尉
5中 川島 敬之 曹長
重追中 鎌倉慎太郎 3曹
（第1後方支援連隊）
2整大 荒金 薫 3曹
（第1通信大隊）
1中 山荷 秀斗 3曹
（第5施設群）
進藤 晃一 2曹
郷田 直人 2曹

【表彰】第4級賞詞（第1普通科連隊）
本管中 杉谷 武志 2曹
1中 和田 健一 1士長
3中 飯沼 剛史 2曹
3中 阿保 憂樹 3曹
4中 佐藤 守彦 3曹
【表彰】第5級賞詞（第1高射科大隊）
指情中 大島 由寛 3曹
（第1偵察戦闘大隊）
戦闘中 土屋 達彦 3曹
戦闘中 住福 紘充 3曹
（第1施設大隊）
1中 伊澤 亮 3曹
（第1普通科連隊）
本管中 小出 浩史 1曹
本管中 中沖 裕 2曹
2中 榎本 駿斗 3尉
5中 川島 敬之 曹長
重追中 鎌倉慎太郎 3曹
（第1後方支援連隊）
2整大 荒金 薫 3曹
（第1通信大隊）
1中 山荷 秀斗 3曹
（第5施設群）
進藤 晃一 2曹
郷田 直人 2曹

師団長は7月12日、駒澤大学において法学部及び政治学部の学生84人に対し防衛講話を行った。（写真）
当初、師団法務官によ

師団長募集の最前線に立つ 駒澤大学学生に防衛講話

続いて学生から師団長への個人的質問と題して、入隊の動機からウクライナ情勢まで幅広い学生からの質問に、師団長はユニフォームを交えながらも真摯に回答した。また数多くある職種・職域の中で自分に合った仕事を選択でき、かつ教育を重視する自衛隊の人材育成の素晴らしさを伝えた。参加した学生からは「第1師団トップの話聞いて自衛隊へのイメージが大きく変わった」との声があった。



隊員と懇談をする政務官



装備品の現状を確認する政務官

師団は7月10日、練馬衛大臣政務官による部隊駐屯地において小野田防衛視察を受けた。政務官は師団長等の出迎いの後、慰霊碑に献花し、師団作戦室において師団及び練馬駐屯地の状況報告を受けた。続いて政務官は、隊員との懇談を行い、勤務環境の話など親身に話を聞いて実情を把握した。また猛暑の中で実施した装備品展示、新隊員訓練視察においては、装備品使用者の意見を確認しつつ、展示・説明に対応する隊員、訓練に励む新隊員をそれぞれ激励した。各施設巡視の移動間は、82式指揮通信車や16式機動戦闘車等に試乗して体感し、その性能を確認した。

最後に政務官は師団長とチャレンジコインの交換を行った後、離隊した。

師団は7月10日、練馬衛大臣政務官による部隊駐屯地において小野田防衛視察を受けた。

政務官は師団長等の出迎いの後、慰霊碑に献花し、師団作戦室において師団及び練馬駐屯地の状況報告を受けた。続いて政務官は、隊員との懇談を行い、勤務環境の話など親身に話を聞いて実情を把握した。また猛暑の中で実施した装備品展示、新隊員訓練視察においては、装備品使用者の意見を確認しつつ、展示・説明に対応する隊員、訓練に励む新隊員をそれぞれ激励した。各施設巡視の移動間は、82式指揮通信車や16式機動戦闘車等に試乗して体感し、その性能を確認した。

最後に政務官は師団長とチャレンジコインの交換を行った後、離隊した。

第12旅団

令和5年度第1次旅団訓練検閲

旅団空中機動訓練も実施

旅団は7月7日から16日までの間、東富士演習場において第12通信隊及び第12化学防護隊を受閲部隊とした令和5年度第1次旅団訓練検閲を行った。また併せて検閲の対抗部隊となる赤旅団司令部、第13普通科連隊、第12ヘリコプター隊等による第1回旅団空中機動訓練を実施した。



降着後に戦闘展開するヘリボン部隊

旅団長は訓練に当たっての共通の要望として「即応力の強化」「安全管理の徹底」を、訓練検閲受閲部隊に対しては「指揮の要訣の実践」「敵を意図した行動」を、空中機動訓練においては「地形・気象を克服した柔軟な空中機動作戦の遂行」を掲げた。

訓練は雨の多い日が続き、高温多湿の過酷な環境下で行われた。12通信は各種通信を継続的に確保するとともに、12化防は特殊武器攻撃による汚染状況を速やかに解明し、

汚染された人員・装備品、地域除染等を行うなど、検閲受閲部隊はこれまでの訓練成果を遺憾なく発揮し、その実力を示すとともに良好な成果を収めた。

また旅団空中機動訓練では、ヘリボン作戦の一連の行動を演練するとともに、空中機動における綿密な準備・条件作為に向けた指揮幕僚活動及び隷下部隊の諸職種協同に係る識能の向上を図った。

05JXR

空中機動力を最大限に活用

令和5年度自衛隊統合防災演習

旅団は6月26日から30日までの間、令和5年度自衛隊統合防災演習(05JXR)に参加した。

本演習は南海トラフ地震対策における指揮幕僚活動を演練する指揮所演習として全国の自衛隊で行われ、旅団は本指揮所

演習に併せて、旅団独自の訓練として空中機動による実動検閲を実施した。FAST Force



空中機動による移動指揮所の推進



映像伝送準備を行う偵戦大の隊員

対空戦の基礎を修得 携帯SAM集合教育



携帯SAMの基本操作をする隊員

旅団は6月5日から7月7日までの間、相馬原駐屯地、相馬原演習場及び下志津駐屯地において、令和5年度旅団携帯SAM集合教育を実施した。

本教育は第13普通科連隊長が担任官となり、各隊長が担任官となり、各普通科連隊及び偵察戦闘

隊の進捗状況を確認するとともに、教育に参加している隊員を激励した。

なお6月13日に、旅団長が現地指導を行い、教育の進捗状況を確認するとともに、教育に参加している隊員を激励した。



【新町駐屯地】修了式に華をそえる音楽隊の演奏



【高田駐屯地】思い出話で盛り上がる会食会場



意見を交わす旅団長(中央)と長野地方協力本部長(手前)と群馬地方協力本部長(当時)(奥)

隊員募集について意見交換 第12警備地区募集施策連携会同

旅団は6月15日、司令部作戦室等において第12警備地区募集施策連携会同を実施した。本会同では第12旅団区内各部隊と各地方協力本部長が募集業務における意見交換を実施し、厳しい募集環境についての認識共有を図る

とともに、令和5年度に各地方協力本部長が実施するイベント等を充実させ、良質な志願者獲得に資することを目的として行われた。会同にあたり旅団長は「募集難で困るのは地方協力本部ではない」と語り、地方協力本部との連携に努める。

見交換を行って欲しい(要旨)と訓示し、各部隊に対して「当事者意識を持って」「知恵を出せ」の2点を要望した。会同においてはさまざまな意見が交わされ、実りある内容となった。引き続き旅団は、地方協力本部との連携に努める。

誕生！ 第12旅団公認キャラクター「わっしー」と「ひよこ」



わっしー(左)と、ひよこ(右)

この度公認キャラクター「わっしー」と「ひよこ」が誕生しました。この「わっしー」は、旅団の部隊章にあるオオワシをモチーフに、2頭

身のかわいらしい姿でデザインし、まんまとした4匹が「ひよこ」で、それぞれが旅団公認のキャラクターとなりました。

成長した姿を家族に披露 自衛官候補生修了式



【新発田駐屯地】来賓・家族が見守る中、厳かに挙行



【松本駐屯地】統制の取れた敬礼を披露

第2普通科連隊(高田駐屯地)、第13普通科連隊(松本駐屯地)、第30普通科連隊(新発田駐屯地)及び第12後方支援隊(新町駐屯地)の各部隊が担任・実施していた自衛官候補生課程の修了式が、6月下旬に各駐屯地で行われた。修了式には、来賓や自衛生らの家族が多数訪れ、自衛官の基礎となる訓練を終え見送るよう成長した姿を見守っていた。

第1施設団

東部方面総監初度視察

古河駐屯地の作戦基盤を確認

施設団及び古河駐屯地業務隊は7月25日、東部方面総監の初度視察を受けた。駐屯地に到着した総監は、駐屯地体育館において儀仗隊の栄誉礼を受けた後、施設団作戦室

において団長及び業務隊長からの状況報告を受けた。隊内巡視においては、部隊の勤務庁舎、管理施設等の状況、隊員の生活環境等、駐屯地の作戦基盤の現況を視察した。

その後、駐屯地体育館において整列した部隊は総監より「安田団長の統率のもと、全隊員が施設団の地位・役割を深く認識せよ。そして万事件を基準という考えの下、即応態勢の充実、作戦遂行能力の向上及び作戦基盤の充実を図り、引き続き任務遂行、隊務運営にまい進することを期待する」との訓示を受けた。



第1施設団の状況報告



儀仗隊を巡閲



屋上での地点指示



生活環境の確認(女性隊舎)



施設の説明(古河支処)

7-07-08
【X】

自衛隊統合防災演習

大規模災害へ備える

施設団は6月26日から30日までの間、朝霞駐屯地等において実施された令和5年度自衛隊統合防災演習(05JXR)に参加した。

本演習は最大震度7の揺れを観測した南海トラフ地震の想定で行われた。古河駐屯地において地震発生後の速やかな情報収集及び状況報告を実施した後、朝霞駐屯地に



施設調整所の総監視視察



施設調整所における会議



2科による状況把握

において施設学校からの増強幕僚を加え、施設調整所を開設・運営した。施設調整所では総監の状況判断・決心に資するため東部区内における施設科部隊運用の最適化、統合任務部隊及び各方面

隊の施設調整所との連絡・調整業務等を行い、施設運用に係る活動を実施した。

本演習を通じ南海トラフ地震及びそれに伴い生起する各種複合事態への対応等について検証し、今後の災害対処計画の見直しの資を得た。

関東補給処

戦没者慰霊事業を支援

化学部 硫黄島でガス検知

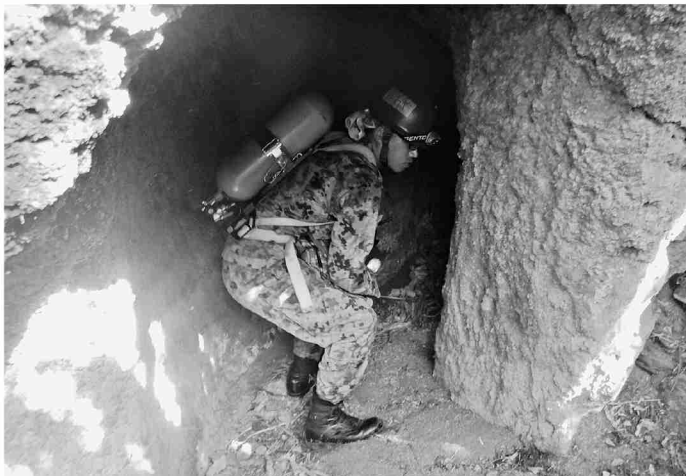
関東補給処化学部は6月21日から7月6日までの間、硫黄島において令和5年度硫黄島戦没者慰霊事業支援を実施した。本任務は厚生労働省が実施する「硫黄島戦没者

遺骨収集帰還事業」の取り組みの一つである。関東補給処化学部は厚生労働省の職員による地下壕の構造解析業務等に先立ち、ガス検知支援を行い現地での安全化を図った。また防

衛省自衛隊としては遺族等関係者の輸送や不発弾処理等の支援に当たった。今回硫黄島において任務に当たった大矢2尉と高橋1曹は、約60℃にも達する地下壕内に入った



壕の調査に同行する隊員



地下壕内に入りガス検知作業を行う大矢2尉

霞ヶ浦駐屯地公式ホームページ
https://www.mod.go.jp/gsd/eae/eadep

X(旧Twitter) フォロワー募集中!!

陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地公式 @CampKasumigaura

安全運転管理者講習普及教育

管理者に必要な識能を付与



霞ヶ浦駐屯地は7月13日、安全運転管理者講習普及教育を行った。本教育は駐屯地各部隊等安全管理者に対して、安全運転管理者の基本業務等を普及することを目的に実施された。教官である関東補給処輸送課長は、茨城県公安委員会が実施した「安全運転管理者講習」に基づき教育を行い、交通ルールの遵守と正しい交通マナーを徹底した。特に

通勤・通学の時間帯に死亡事故の発生件数が多くなる傾向にあることを理解させ、安全運転に対する意識及び安全運転管理者としての識能の向上を図ることができた。本教育で学んだことを参考とし、駐屯地交通安全運動等の機会を通じて、引き続き駐屯地各部隊等安全運転管理者の識能を向上させ、交通事故等の絶無を図っていく。



情報収集に当たる隊員

関東補給処は6月26日から30日までの間、霞ヶ浦駐屯地等において実施された令和5年度自衛隊統合防災演習(05JXR)に参加した。

「6月26日午前9時頃、日向灘を震源とする最大震度7の地震が発生した」という想定の下、計画に基づき速やかに指揮所を開設して情報収集に当たるとともに、本処から連絡要員を、併せて松戸、古河支処から増強幕僚をそれぞれ総監部へ派遣した。またB庁舎においては富士地区での展開を想定した指揮所を開設し、指揮幕僚活動を演練した。本演習を経て多くの成果及びさらなる実効性向上の資を得た。

小野田政務官が立川駐屯地を視察 生活・勤務環境改善に意欲



隊員との懇談

立川駐屯地は7月3日、小野田防衛大臣政務官による部隊視察を受察した。視察は記念撮影から始まり、司令による状況報告、隊員との懇談、施設実視（格納庫・滑走路）が行われた。政務官は懇談において、隊員の生活・勤務環境について積極的に意見を求め、親身になって耳を傾けていた。また航空機の運用、映像伝送機での映像配信要領、滑走路の経年劣化の状況などについて現地を確認をした。政務官は全般を通じて、

隊員の報告及び意見を十分に把握するとともに、駐屯地の改善に意欲を示した。駐屯地は佐藤司令を核として任務即応、環境の改善について徹底し、地域に理解される駐屯地を目指してまい進していく。



滑走路の視察



答辞を述べる大塚2士



別れを惜む新隊員

約3カ月間にわたり自衛官としての基礎となる教育訓練を終え、この日を迎えた新隊員たちの表情は達成感に満ちていた。立士官である東部方面混成団長は「陸上自衛官としての第一歩を記した武山での初心を忘れず、同期の絆を大切に、陸上自衛隊の将来を担う人材として大成することを切に祈念する」と訓示を述べ、新隊員の門出を祝した。

また新隊員代表の大塚2士（栃木県出身）は答辞の中で「現在、多岐にわたる任務を遂行されて

混成団

一般陸曹候補生課程（前期）卒業式 同期との別れ惜しむ

第117教育大隊は6月28日、武山駐屯地において「第20期一般陸曹候補生課程（前期）」の卒業式を実施した。

いる先輩方のように国民に信頼される立派な自衛官になれるよう後期教育での教育訓練に励む所存です」と決意を述べ、「東部方面混成団及び第117教育大隊の益々のご発展と教育に携わる全ての要員の方々のご健勝を祈念します」と感謝の言葉で結んだ。



出場選手による演武披露



県知事からの記念品贈呈

シ通群

埼玉県知事に対し銃剣道大会の優勝報告 出場選手が演武を披露

東部方面シテム通信群は6月20日、第67回全日本銃剣道優勝大会防衛省第2部の優勝報告のため、埼玉県知事及び埼玉県議会議員を表敬した。当日は埼玉県銃剣道連

盟会長ならびに事務局長同席のもと、訓練担任官中矢3佐が試合の結果報告をした後、監督が試合状況を説明するとともに出場選手による演武披露をした。

県知事からは「県民として大変うれしい。勤務の合間を縫って厳しい練習を積み重ねてきたことに、お祝いと敬意を表したい」と、練成隊を慰労

していた。また埼玉県のマスコットキャラクタであるコバトンに道衣と木銃をあしらった手作りの記念品を贈呈していただいた。

群は若年隊員の育成を重視して、部隊の団結強化及び戦技能力のさらなる向上を目標に今後も練成を継続していく。

後支隊

民生の安定に寄与 硫黄島で不発弾処理

東部方面後方支援隊第102不発弾処理隊は6月28日から7月6日まで



処分場を集積した不発弾

の間、東京都小笠原村硫黄島において、厚生労働省が実施する「硫黄島戦

没者遺骨収集帰還事業」を支援した。支援間、102処理隊は遺骨収集のための掘削や壕内の調査等の過程で発見された不発弾の弾種を迅速かつ正確に識別

し、適切に取り扱うとともに、周囲に危険区域を標示する等安全処置を講じた。そして運搬可能な不発弾は回収し、島内の一時保管庫に保管した。また

後輩隊員にその技術と知識を教えられるよう練習していきます」と所感を述べた。



爆破準備を行う河上3曹

102処理隊は本事業に対する支援任務を完遂し、同事業の整齊円滑な実施に寄与した。支援に参加した河上3曹は「事前の調査から爆破処分まで参加し、非常に勉強になることが多かったです。初めての現地爆破処分では多種多様な不発弾を集積し爆破しました。先輩方の知識と技術を教わり、事故なく爆破処分を完了させることができました。今回学べた事を次の処理で生かし、また後輩隊員にその技術と知識を教えられるよう練習していきます」と所感を述べた。

神奈川県本

部活動応援企画でPR 近隣3高校とハンドボールで交流

自衛隊神奈川県地方協力本部相模原地域事務所は7月8日、海上自衛隊横須賀地区送球会(基地内)の部活動の支援を受け、高校生に対し部活動応援企画「ジョイントレ」を実施した。今年も昨年に引き続き、海自送球会と合同練習をしたいと申し出のあった相模原田名高校、上溝高校及び厚木北高校の3校が参加し、ハンド



合同で汗を流したハンドボール

ボールで交流を行った。当日は相模原地域事務所所に学生58人が集合し、横須賀地方総監部に着した。自衛隊及び3校の代表者が挨拶、約2時間練習試合を実施して汗を流した。試合終了後は相模原地域募集相談員会からの激励品贈呈及び記念撮影後、三笠公園に移動して戦艦「三笠」の見学を行った。

生徒からは「体育館が広く充実した施設なので、のびのび練習ができました」「自衛官の皆さんからとても優しく教えてもらいました」「海上自衛官として自衛隊で勤務したい」などの声が聞かれた。学校教諭からは「今年もこの練習ができたこと、自衛隊及び他校との練習で得たことをきっかけに今後の大会に臨みたい」と今後の競技に向けた抱負が聞かれた。

また送球会の参加者は「このような訓練を企画してくれて感謝しています。この中から海上自衛官を目指してくれる生徒が出てくれることを願います」と語った。

※ジョイントレとは、ジョイントレナーズの略で、相模原地域事務所が独自で定めたものであり、地域事務所が近隣の高校等と部活動を通じて交流するもの

訓練所感

東部方面衛生隊本部 3等陸佐 中川 健太

栃木地本

自衛隊サマーフレンドリーシップキャンペーン 氏家商工まつり、山あげ祭で広報展

自衛隊栃木地方協力本部大田原地域事務所は7月22日には氏家商工まつり(さくら市)、同月23日には山あげ祭(那須烏山市)で4年ぶりに広報展を実施した。

「期間中の広報展ということもあり、特に募集広報を意識した広報展を実施した。氏家商工まつりにおいては小型トラックを展示した。多くの高校生・中学生が鉄帽をかぶり、競うように運転席に座わり、自衛官になったような体験をした。その中でも友達同士6人で乗車し、楽しそうにはしゃぐ姿がとても印象的であった。広報展を支援していた広報・渉外室長のパイロットの体験談に、憧れのまなざしで聞き入る姿も見られ広報展は大いに盛り上がりつつあった。

山あげ祭においては、中央即応連隊(宇都宮)の支援を受け、軽装甲機動車を展示した。鉄帽、防弾チョッキを装着し、その重さに、驚く場面が見られるなど、今までコロナ禍で自衛隊に触れる機会が少なかった多くの市民、多くの中学生・高校生に自衛隊のリアルな魅力を体感してもらうことができた。

また両日ともに自衛隊募集相談員大田原支部から支援をいただき、制服試着支援や地域の知り合いへの声かけなどをしていただいた。

大田原地域事務所は今後も相談員と連携し、「地域密着型」の広報で募集

静岡地本

迷彩服やVRで自衛官気分 富士市「きつきこまつり」に参加

自衛隊静岡地方協力本部富士地域事務所は7月2日、富士市の米之宮浅間神社で開催された「きつきこまつり」に参加し、広報活動を行った。

本イベントは同神社協力のものと開催された夏祭りで、午前10時の開始とともにステージ上では和太鼓演奏やキッズアリアーディング、バンド演奏等が会場を盛り上げた。また飲食店や雑貨販売など55店舗が軒を連ね、多くの家族連れが来場して賑わいを見せた。

富士所はブース前に試着体験用の迷彩服、テント横に中型・小型トラックを配置し、遠くからでもわかるように自衛隊をアピールした。車両の座席に座る体験や迷彩服の試着体験、ヘリコプターからの降下などを疑似体験できる迫力満点のVR体験が人気を集め、ミニ迷彩服を着た子どもたちがうれしそうにハンドルの握ったり、大きな車両と記念撮影を楽しむ様子が見られた。

また「自衛隊に興味がある」とブースを訪れた若者に対し広報官が自衛官採用制度について丁寧に説明するなど、幅広い年齢層の住民とふれあうことができ自衛隊をPRする貴重な場となった。

ある! ある! 自衛隊



小型トラックに試乗する高校生(氏家商工まつり)



鉄帽等を体験する子どもたち(山あげ祭)



中型トラックに乗り込む子どもたち



採用制度を説明する広報官

富士所は今後も、地域のイベント等において自衛隊の活動や魅力を発信し、自衛隊を身近に感じることができるよう広報活動を実施していく。

最先任 上級曹長

「奉仕の精神継承」 東部方面会計隊 廣兼 敦 陸曹長



東部方面会計隊最先任上級曹長の廣兼曹長で、出身は静岡県御殿場市、昭和63年3月に第34普通科連隊教育隊に入隊、後期教育を業務学校（現小平学校）で会計科隊員としての基礎を学び、部隊配属後、さまざま

まな業務を経験し、平成28年、第5次派遣海賊対処行動支援隊経理陸曹として、厳しい状況下での勤務を経験、29年8月、第407会計隊（武山）先任上級曹長を経て、現在に至っております。

会計隊長山口1佐（当時）の要望事項「実力の向上」「ワークライフバランスの実現」を具現

化すべく隊員と共に日々奮闘しています。会計隊は残業が多いイメージと捉えられているようですが、現在は業務システムの普及、事業の効率化により、残業も減少し、課外は体力練成や自己啓発など余暇の時間を有効に活用しています。

最近の若い隊員は私のころから比べると、多様な価値観を持ち合わせ、デジタルスキルや情報収集能力も高く、命ぜられた事も忠実にやり遂げてくれます。その反面、失

敗や指導されることを避けたり、打たれ弱い一面も持ち合わせています。が、本場に一所懸命、与えられたそれぞれの役割を果たしてくれています。

最後に時代は変われど業務の在り方や育成の本質は昔と変わりません。私は最先任上級曹長として、諸先輩方から受け継がれてきた奉仕の精神を継承し、お互いを信頼、尊重できる実直で素直な心を持った隊員の育成を目指し、これからも職務に励んでまいります。

予備自衛官 茨城地方協力本部 大久保 覚 1等陸尉



私は昭和59年陸上自衛隊に入隊し、令和元年茨城地方協力本部を最後に35年の勤務を終えました。現役時は約

12年間、東部方面管内の地方協力本部で広報官や地域事務所長を勤務したのち、即応予備自衛官班長として即応予備自衛官の勧誘を行ってききました。自衛隊退職後の令和2年には予備自衛官となり、今年で4年目を迎えました。この経験を基に予備自衛官招集訓練に参加して感じたことを少し述べさせていただきます。

それは予備自衛官補から任官した自衛官として勤務経験がない予備自衛官に対しては、もう少し手厚い配慮があっても良いのではないかと感じています。例えば専門用語を使用した場合、理解が困難な場合があります。自衛官未経験者でも解るよう専門用語を噛み砕き、併せて根拠に基づいた説明を実施すれば、訓練の効率化にも繋がると感じています。訓練内容を把握出来なければ非効率な訓練となり、教える側と教わる側の関係に溝が生じる可能性もあります。私も現役時代には相手の立場を考えて説明をしたつもりでしたが、今思うと配慮が足りなかったと感じています。

今後の訓練において、私も自衛官未経験者に対しては努めてわかりやすく話すことに気を付けていますが、訓練を担任されている部隊の皆様方にもご配慮をお願いいたします。

また最近の訓練では、私が地域事務所長時に募集相談員だった方や、即応予備自衛官班長時に担当した隊員に偶然出会い、現在同志として予備自衛官招集訓練に参加して、交流を深めることができたといううれしい出来事もありました。昔の知人と再会できた喜びも、予備自衛官招集訓練に参加したからです。

反りて己に求むるのみ

第13普通科連隊 坂戸 しおり 3等陸曹

隊の姿を見て、人の役に立つ仕事をしたいと思うようになり、また兄が陸上自衛隊に入隊したことにより、さらに自衛隊に興味を持ち「国を守り人の役に立ちたい」と考え、自衛官になることを決意しました。

Q2・現在の職務は？
主に小銃小隊のO1A1 M手として勤務する他、最近では携帯SAM（地对空誘導弾）の集合教育にも参加。また中級文書の特技を取得し、事務室等での文書業務も行っています。

Q3・休日の過ごし方は？
コーヒー・紅茶など甘いものが好きで、よく地元でカフェ巡りをします。旅行先では神社を参拝したり、事前に調べたコーヒーの美味しい喫茶店で、ゆったりとした時間を楽しんでます。

Q4・今後の目標は？
自身の特技を生かして、携帯SAMや文書の知識技能を同僚に普及し、部隊の基礎能力向上に貢献したいと考えています。また後輩に頼られる先輩となるよう、これからも努力し続けていきたいです。

今月のフェアレディは、第13普通科連隊坂戸しおり3曹です。坂戸3曹は長野県千曲市出身の25歳で、同連隊第2中隊の小銃小隊に所属しています。趣味はカフェや神社仏閣巡り。高校時代は弓道部に所属していたため、また好きな弓道を始めたいと考えています。



Q1・自衛隊に入隊したきっかけは？
東日本大震災や豪雨災害時に活動している自衛

東方男児

「高射特科のサラブレッド」 第1高射特科大隊 倉兼 翔汰 3等陸曹

今月の東方男児は爽やかな笑顔を見せる倉兼3曹です。

Q2・現在の職種を希望した理由は？
実は両親も高射特科の隊員です。今もですが、小さいころから父と釣りに行き、釣りを垂らして眺めた日本の空を両親と一緒に守りたいって思っていたからです。

Q3・これまでで最も思い出深い訓練は？
北海道の静内対空射場で実施された対空実射訓練です。憧れだった先輩方と共に訓練に励み、対空実射訓練において要撃成功して、先輩方と歓喜し、喜びを分かち合えたあの瞬間は今も忘れられません。今の自分が高射特科隊員としていられるのも、この訓練で自信を得られ、少しでも憧れの両親の背中に近づけたという実感を覚えたからです。

Q4・「自身のモットーと任務で心掛は？」
「常に明るく、元氣よく」がモットーです。長



期の演習で自宅に帰った父は、どんなに疲れているも明るく、疲れた素振りも見せず僕と一緒に遊んでくれました。そんな父の姿を今になってようやく理解できるようになりました。だから私もいつか父の時を明るく元気で頑張ろうと心がけています。父が僕の見本のように、僕も後輩隊員の見本になればと思います。

両親ともに自衛官の倉兼3曹がいつか両親の背中に追いつき追い越す活躍をされることを期待しています。

編集後記

「推敲（すいこう）」という故事成語は「文章を良くするため何度も吟味して練り直すこと」という意味で使われている。唐の詩人が「僧は推す月下の門」という句を口ずさんだ後、「推（お）す」が正しいのか「敲（たた）く」が正しいのか迷った。しまい、高名な詩人に相談をし、ようやく「敲」に決めた故事に由来する。文章は相手に事実や思想を伝える重要な手段であり、知ってもらいたいことを分かりやすく伝え、かつ誤解を与えないようにしなければならぬ。そのため文章作成にあたっては「推敲」を重ねることを心掛けており、状況が許すのであれば十分に時間をかけるようにしている。不思議なことに、その時は完璧な文章が作成できたとおもっても、次の日に読み返せば違う発見があり修正が必要となる。3日かけて3回読み直せばその度に気付きがあり、だんだん磨きがかかれていくような感覚にもなる。また凝り固まった一人の視点では盲点が生じるため、なるべく別の者にも文章を確認してもらい、感想をもらうようにしている。